

平成27年度 行政評価事業別シート

実計対象	<input checked="" type="checkbox"/>	評価対象	<input checked="" type="checkbox"/>	新規	<input type="checkbox"/>	完了事業	<input type="checkbox"/>	ゼロ予算事業	<input type="checkbox"/>	担当者	栗田 利一
全体計画						経費区分		実施計画事業費		内線	3522
事務事業名	4236 まちづくり推進事業										
所 属	200200 まちづくり推進部・まちづくり課										
施 策	06023200 景観の保存と創造										
予算科目	会計	01 一般会計									
	科目	080405 土木費・都市計画費・まちづくり推進費									
	事業	010000 まちづくり推進事業									
事業目的						事業概要・効果					
歴史的・文化的資産である蔵の町並みをいかした、住みよい活力あるまちづくりを推進する。						<ul style="list-style-type: none"> ・製糸で栄えた須坂の歴史文化を伝え、町並みの景観上も重要な旧小田切家住宅を復元修理する。 ・歴史的建造物を活かしたまちづくりのため、「須坂市歴史的建造物」への登録及び「須坂市歴史的建造物を活かしたまちづくり事業補助金」の交付を行う。 ・社会資本総合整備計画及び都市再生整備計画（須坂中央・旭ヶ丘地区、第2期H23～27）の事後評価を行う。 					

PLAN-DO

年度実績及び予定

平成22年度 実績	平成23年度 実績
<ol style="list-style-type: none"> 1 市道銀座通り線整備事業第2期工事 L=290m 2 市道新町高橋線整備事業懇談会 3 社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業）須坂中央・旭ヶ丘地区（第2期）作成 	<ol style="list-style-type: none"> 1 市道新町高橋線測量設計委託、境界立会い、地元設計協議の実施 2 歴史的建造物維持保存活用検討委員会、庁内検討委員会、市長へ検討報告書提出
平成24年度 実績	平成25年度 実績
<ol style="list-style-type: none"> 1 市道新町高橋線整備事業第1期工事 L=119.6m 2 旧小田切家住宅用地取得・保存調査 3 歴史的建造物維持保存活用検討委員会 4 歴史的建造物審査会、建造物登録10件、歴史的建造物を活かしたまちづくり事業補助金1件 	<ol style="list-style-type: none"> 1 市道新町高橋線整備事業第2期工事 L=161.2m 2 旧小田切家住宅（調査委員会、調査団会議、精密耐震診断、実施設計、中間報告書作成） 3 社会資本（豊丘地区都市再生整備計画）新規作成 4 歴史的建造物審査会、建造物登録5件
平成26年度 実績	平成27年度 予定
<ol style="list-style-type: none"> 1 市道新町高橋線整備事業第3期工事 L=297.1m 2 旧小田切家住宅復元修理工事 3 社会資本（都市再生整備計画事業） 4 歴史的建造物審査会、建造物登録、歴史的建造物を活かしたまちづくり事業補助金 	<ol style="list-style-type: none"> 1 旧小田切家住宅復元修理工事 2 社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業）須坂中央・旭ヶ丘地区、豊丘地区 3 歴史的建造物審査会、建造物登録、歴史的建造物を活かしたまちづくり事業補助金

指標名	市道新町高橋線の交通量（12h）				
算式					単位 台
年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
目標値	目標				2,400
	実績	2,739			
指標選定の理由	市道新町高橋線を蔵の町並みにふさわしく、また、生活道路道路としても歩行者に優しく歩きやすい道路に整備するため。（整備はH24からH26にかけて実施するため交通量調査はH27に実施する。）				
最終年度目標の根拠	市道新町高橋線を蔵の町並みにふさわしく、また、生活道路道路としても歩行者に優しい道路として整備することにより、通過交通量が減少する。				
指標名	歴史的建物を活用した新たな施設数（累計）				
算式					単位 箇所
年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
目標値	目標		4	5	6
	実績	2			
指標選定の理由	歴史的建物維持保存活用検討委員会にて、歴史的建物の維持、保存、活用のための方策等について検討し、その結果歴史的建物の活用が図られ、建物の維持にもつながるため。				
最終年度目標の根拠	歴史的建物維持保存活用検討委員会にて、歴史的建物の維持、保存、活用のための方策を検討し、実際に活用された建物の数の累計を根拠とする。				
指標名					
算式					単位
年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
目標値	目標				
	実績				
指標選定の理由					
最終年度目標の根拠					

事業費

（単位：千円）

		平成26年度 決 算	平成27年度 予 算
事業費		142,378	140,396
特定財源	国庫支出金	0	55,468
	都道府県支出金	0	0
	地方債	0	69,400
	その他	0	0
一般財源		142,378	15,528
人員数（人）	正規職員	1.5	1.3
	嘱託職員	0.2	0.2
	臨時職員	0.0	0.0
人員コスト	正規職員	10,287.0	8,915.4
	嘱託職員	545.0	545.0
	臨時職員	0.0	0.0
	計	10,832.0	9,460.4
市民一人当たりの経費		2.9	2.9
総額		153,210.0	149,856.4

（単位：千円）

平成26年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	114	旧小田切家住宅調査委員、調査団員謝礼 歴史的建造物審査会謝礼
11節 需用費	222	消耗品費、燃料費、修繕料
13節 委託費	2,701	痕跡調査業務、歴史的建造物登録銘板作成 旧小田切家住宅復元修理工事管理業務（25年度からの繰越事業）
15節 工事請負費	134,197	新町高橋線（25年度からの繰越事業） 旧小田切家住宅（25年度からの繰越事業）
19節 負担金補助及び交付金	5,000	歴史的建造物を活かしたまちづくり事業補助金
その他	144	旧小田切家住宅調査委員、調査団員旅費 車検手数料、保険料、自動車重量税

(単位：千円)

平成27年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	384	旧小田切家住宅調査委員、調査団員謝礼 歴史的建造物審査会謝礼
11節 需用費	382	消耗品費、燃料費、修繕料
13節 委託費	4,590	旧小田切家住宅復元修理工事監理業務（26年度からの繰越事業）、痕跡調査業務、歴史的建造物登録銘板作成
15節 工事請負費	124,636	旧小田切家住宅（26年度からの繰越事業）
19節 負担金補助及び交付金	10,211	歴史的建造物を活かしたまちづくり事業補助金
その他	193	旧小田切家住宅調査委員、調査団員、歴史的建造物審査会旅費 郵便料、車検手数料、保険料、自動車重量税

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか 行政内部の管理運営上必要な事業であるか 市が主体となり実施すべき事業か 法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか 目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか 	高い
評価コメント	新町線は、以前から地元より通過交通量を減らし蔵の町並みにふさわしい歩行者が安心して歩ける道路整備の強い要望があった。 旧小田切家住宅は文化財としての価値が高いため、須坂市歴史的建物維持保存活用検討委員会から保存活用等について報告を受けている。 歴史的建物はこの20年で半数が取り壊されている	
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 事業の成果は上がっているか 目標に対する達成度は十分か 市民生活上の課題解決に貢献しているか 行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか 事業の目的が達成できるような事業内容になっているか 	有効
評価コメント	新町高橋線は道路が整備され、安心して歩行できるようになり、沿線での出店希望が増えている。 旧小田切家住宅は製糸業栄えた須坂の歴史文化を伝え、町並みも景観上重要なものである。 歴史的建物登録、歴史的建物を活かしたまちづくり事業補助金は、歴史的建物の維持・保存に活用できる。	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか 効率性向上に努めているか 使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか 	変わらない
評価コメント	可能な限り事業費の縮減に努めている。	

振り返り（決算年度の取組み課題）

新町高橋線を整備し、蔵の町並みに調和した道路を整備することができた。
 旧小田切家住宅の復元修理のため工事の着工をした。
 須坂中央・旭ヶ丘地区及び豊丘地区都市再生整備計画に基づき、道路等の公共施設整備を行った。
 歴史的建物審査会の審査を経て、建造物の登録及び公表を行い、歴史的な景観や文化等を周知することができた。

ACTION

1次評価

次年度以降の方向性	進め方の改善（縮小）
総合評価コメント	
都市再生整備計画須坂中央・旭ヶ丘地区の完了、旧小田切家住宅復元修理も完了することから、事業内容は縮小するが、歴史的建造物を活かしたまちづくりについて、市民と協働で推進を図る必要がある。	

2次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
2次評価コメント	
歴史的建造物を保存活用しながら多くの人が訪れるまちづくりを進めていく	

外部評価

次年度以降の方向性	
外部評価コメント	